

2020年12月24日時点

(仮称) 三茶のミライ
(三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画)

素案たたき台

- ※ この資料は、計画版です
- ※ 計画版は、冊子版とのつながりを考慮したうえで一部にデザインを施します

世田谷区

令和3年(2021年). XX

目次

はじめに	3
第1章. 「三茶のミライ」策定の趣旨.....	4
1.1 策定の背景と目的.....	4
1.2 策定にあたって.....	5
1.3 対象区域.....	6
1.4 「三茶のミライ」の位置付け.....	7
1.5 三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針.....	8
第2章. 「三茶のミライ」の特長と構成～「みんな」の思いを計画に～.....	9
2.1 「三茶のミライ」の描き方.....	9
2.2 「みんな」が考えるまちのテーマ.....	10
2.3 「みんな」で思い描く未来像.....	12
2.4 基本方針の方針・方策と9つの未来像の繋がり.....	13
第3章. 「三茶のミライ」～みんなでつくる三茶のミライ～.....	15
3.1 未来像の概要.....	15
3.2 未来像実現のための取組み.....	25
3.2.1 取組みの考え方.....	25
3.2.2 9つの未来像を実現するための取組み.....	27
コラム	36
第4章. 今後の展望～「みんな」の思いをまちづくりに～.....	37
4.1 三茶のミライに向けたまちづくり.....	37
4.1.1 協働による持続可能なまちづくり.....	37
4.1.2 まちをマネジメントする仕組みづくり.....	38
4.2 三茶のミライ実現のためのまちづくりの推進体制.....	40
4.2.1 まちづくりの実施主体について.....	40
4.2.2 まちづくりの担い手同士を繋げる機会（まちづくり会議）について.....	41
4.2.3 組織の成熟に伴うまちづくり推進体制の進展について.....	42
4.2.4 まちづくり推進体制の進展状況による変化.....	44
4.3 「三茶のミライ」実現に向けたロードマップ.....	48

添付資料

- ・ 「三茶のミライ」検討経緯
- ・ 取組み一覧
- ・ まちづくり推進体制の事例集 ※二子玉川と下北沢を追加

- ・ まちづくり推進体制の進展に応じた役割一覧
- ・ まちづくり検討委員会資料 ※ホームページリンク
- ・ まちづくり会議、シンポジウム資料 ※印刷用資料を用意
- ・ 三軒茶屋駅周辺まちづくりニュース ※印刷用資料を用意

はじめに

※区長のあいさつを挿入（0.5 ページ～1 ページ程度を想定）

- ・ 歴史（キャロット建設までの）
- ・ 広域生活文化拠点としての位置付け
- ・ 三軒茶屋駅周辺まちづくりの思い（様々な主体がまちづくりを実施し、三茶のミライを作っていく）
- ・ 基本方針策定後、三茶のミライを作る理由（三茶の未来像や取組みを考えることでまちづくりを自分事と認識し、推進させるためのきっかけとする。また、既存の取組みを強化していくため。）（三茶のミライの検討経緯を少し記載する。）
- ・ 実現したいこと（まちが自立してまちづくりを進めていくことで、持続可能な都市経営を実現していく。）

第1章.「三茶のミライ」策定の趣旨

1.1 策定の背景と目的

広域生活文化拠点である三軒茶屋駅周辺は、平成8年にキャロットタワーが完成して以来、まちの構造に大きな変化はありません。一方、3つある広域生活文化拠点の1つである二子玉川では、再開発事業を契機としたまちづくり、もう1つの下北沢では、小田急線連続立体交差事業を契機としたまちづくりによって、まちの姿が大きく変わる中、ハードだけでなくソフトのまちづくりにも活発に取り組み始めているところです。こうした中、三軒茶屋駅周辺でも、都市整備方針などの上位計画や地域の特徴・歴史を踏まえて、区民・事業者・区など多様な主体が一体となり、ビジョンを共有し、ソフトとハードの両面を一体に捉えた総合的なまちづくりを進めていくきっかけとするために、「三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針（以下、「基本方針」という。）」を平成31年3月に策定しました。

基本方針では、まちのビジョンに「進化し続ける交流のまち『三茶 Crossing』」が掲げられています。これには、まちの象徴でもあり歴史ある三軒茶屋交差点や、「人と人が交流する」「道路や鉄道が交差する」「地上のまちと地下鉄が交差する」「様々な機能を掛けあわせる」などの意味が込められています。このまちのビジョンを実現するためには、これまでのまちづくりの取組みを踏まえつつ、具体的な取組みへとつなげていかなければなりません。また、これからのまちづくりは、様々な主体がそれぞれの役割に応じて、相互に連携して取組んでいく必要があります。

みんなが同じ方向を目指してまちづくりを進めていくためには、羅針盤となる未来像や、取組みを支える推進体制が必要となります。「三茶のミライ（三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画）」（以下、「三茶のミライ」という。）は、まちづくりの羅針盤とまちづくりの推進体制の方向性を示すガイドブックとして策定いたしました。

☆なぜ「三茶のミライ」？

「三軒茶屋駅周辺まちづくり基本計画」に「三茶のミライ」という名前を付けたのは、誰でも親しみやすく、気軽に手に取ってもらえるようにポップでフレンドリーな印象を持ってもらうためです。また、「ミライ」の「ミ」は、三軒茶屋の「三」とかけています。



1.2 策定にあたって

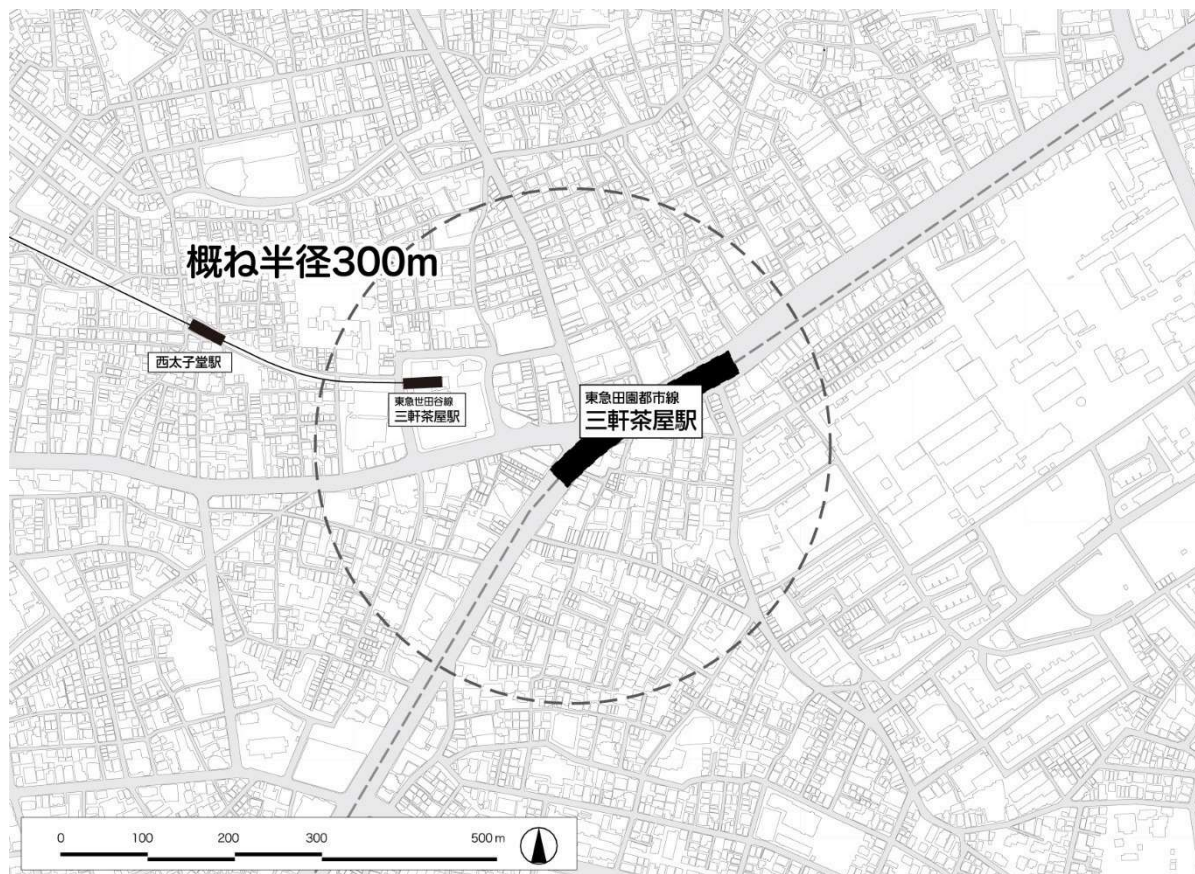
「三茶のミライ」の策定にあたっては、総合的なまちづくりを展開し、「みんなの計画」にするため、地域の方々や三軒茶屋駅周辺で活動するの方々など、多様な主体からの意見を踏まえることが重要です。そのため、区民・事業者などが幅広くまちづくりに参加する三軒茶屋駅周辺まちづくり会議（以下、「まちづくり会議」という。）及びまちづくりを推進させていくための三軒茶屋駅周辺まちづくりシンポジウム（以下、「まちづくりシンポジウムという。」を開催し、様々な意見の聴取やまちづくり参加への気運の醸成を行いました。さらに専門的視点や意見を取り入れるため有識者や地域関係者などで構成する三軒茶屋駅周辺まちづくり検討委員会（以下、「まちづくり検討委員会」という。）を設置し、策定に向けて検討してきました。

なお、まちづくりの取組みの進捗状況や予期せぬ社会情勢の変化も踏まえ、柔軟に見直していくことが重要なため、「三茶のミライ」では、取組みの実施に関する計画期間は定めていません。国土交通省では、新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性として、職住近接や歩いて暮らせるまち、ゆとりあるオープンスペースへのニーズの高まりなどから、都市の持つ集積のメリットを活かしつつ、新たなウイルスの感染拡大防止と経済社会活動の両立を図る新しいまちづくりについて、検討を始めています。そこで、「三茶のミライ」でも、今後取組みを進めていく中で必要に応じて、内容の見直しや更新を行っていくこととします。

1.3 対象区域

「三茶のミライ」の対象区域は、基本方針と同様、三軒茶屋交差点を中心とした概ね半径 300m 以内の範囲とします。(図表 1.3.1 参照)

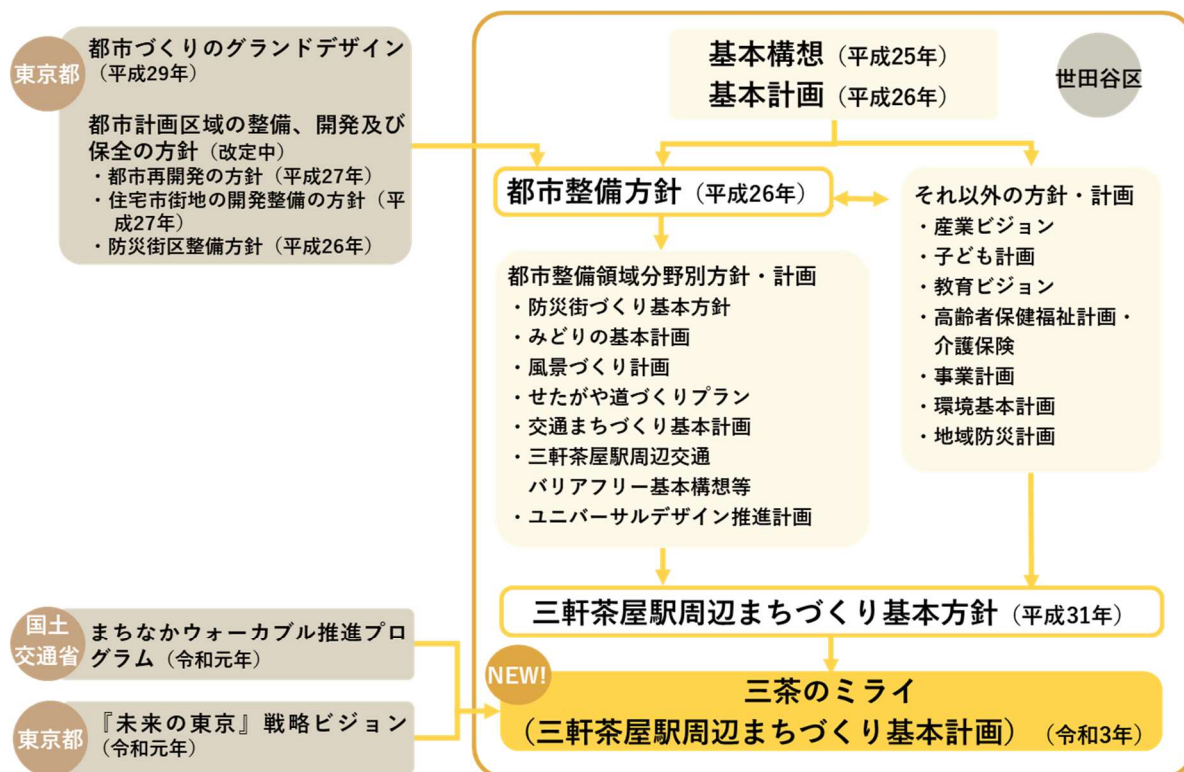
図表 1.3.1 対象区域



1.4 「三茶のミライ」の位置付け

「三茶のミライ」は、東京都の方針や国の政策、本区の基本構想・基本計画、都市整備方針など、三軒茶屋駅周辺のまちづくりに関する各種方針を上位概念とします（図表 1.4.1 参照）。その中でも、基本方針を上位方針に位置付けて、まちづくりを進めていくこととします。

図表 1.4.1 三茶のミライ（基本計画）の位置づけ



※（仮称）三茶のミライ（基本計画）の上位方針となる基本方針については、三軒茶屋駅周辺でまちづくりを行う基となるため、1.5節で詳しく後述します。

※今後まちづくりの取組みの進捗状況や予期せぬ社会情勢が起こることも踏まえ、柔軟に見直していくことが重要なため、（仮称）三茶のミライ（基本計画）では、取組みの実施に関する計画期間は定めていません。また、今後取組みを進めていく中で必要に応じて、内容の見直しや更新を行っていきます。

【まちなかウォーカブル推進プログラム】

国土交通省では、都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会から提言された、『「居心地が良く歩きたくなるまちなか」から始まる都市の再生』を受けて、令和元年に「まちなかウォーカブル推進プログラム」として予算や税制改正等を取りまとめています。

ウォーカブルとは居心地が良く歩きたくなることで、国土交通省では、そのような街路づくりを都市政策の重要課題に位置付けています。このプログラムに賛同し、情報共有や意見の提案などを行う自治体（ウォーカブル推進都市）を募集、公表して施策の推進を始めています。

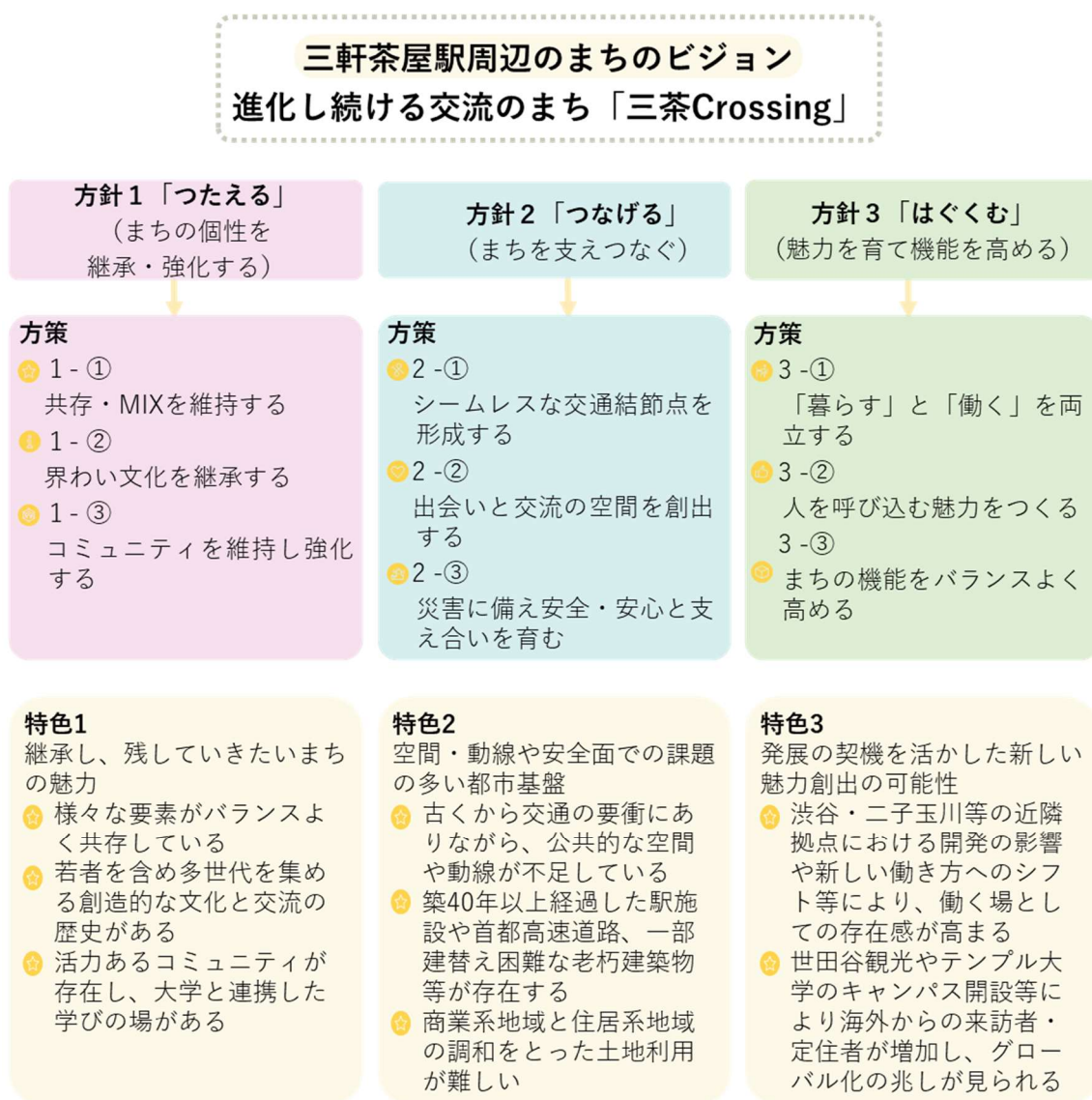
1.5 三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針

「三茶のミライ」の上位方針である基本方針では、まちの特色として「継承し、残していきたいまちの魅力」、「空間・動線や安全面での課題の多い都市基盤」、「発展の契機を活かした新しい魅力創出の可能性」を挙げています。(図表 1.5.1 参照)

そのうえで、三軒茶屋駅周辺のまちのビジョンとして「進化し続ける交流のまち『三茶Crossing』」を掲げ、実現に向けて、まちの個性を継承・強化する「つたえる」、まちを支えつなぐ「つなげる」、魅力を育て機能を高める「はぐくむ」という3つの方針を示しています。また、それぞれの方針に基づいて9つの方策も示されました。

(仮称) 三茶のミライ (基本計画) では、この基本方針と繋がるまちの未来像を検討しています。

図表 1.5.1 三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針の体系

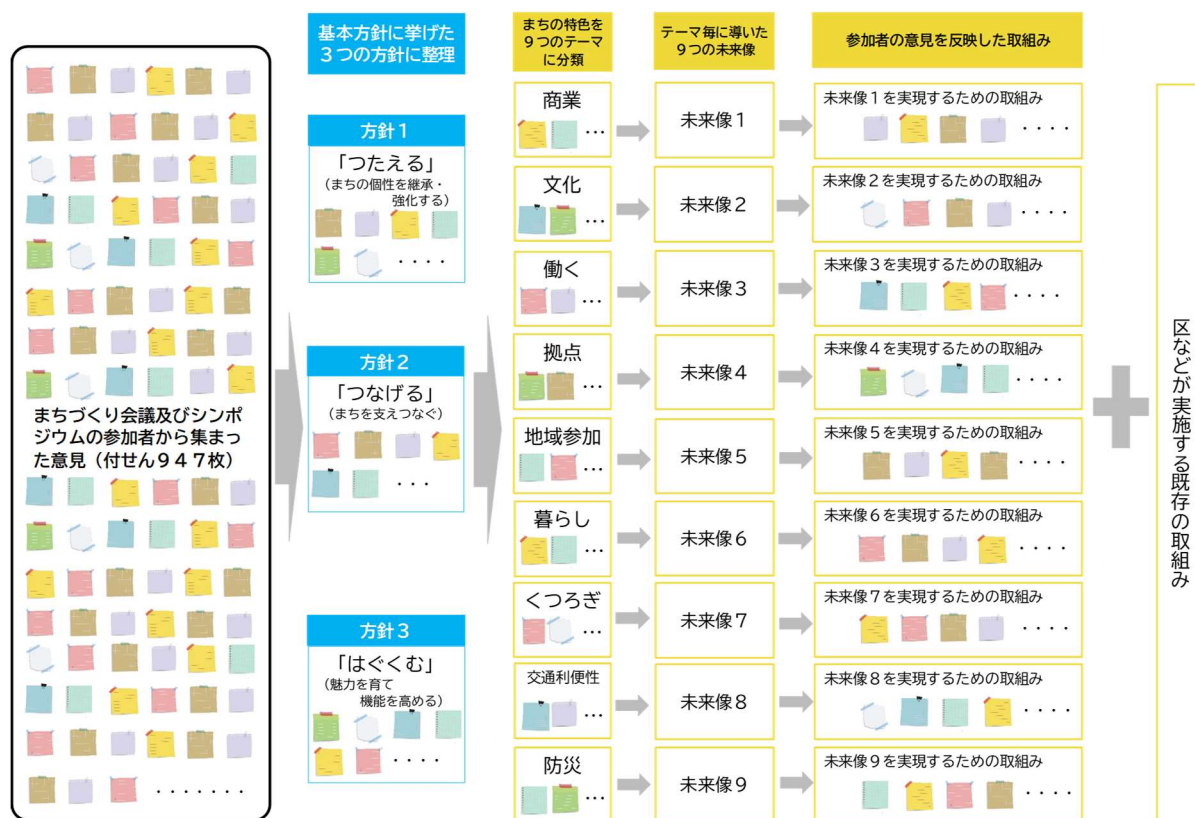


第2章. 「三茶のミライ」の特長と構成～「みんな」の思いを計画に～

2.1 「三茶のミライ」の描き方

「三茶のミライ」は、基本方針のまちのビジョンを踏まえ、多様な主体が連携したまちづくり活動を行う「みんなの計画」であるということを基本理念とし、1.2節で示している「まちづくり会議」と「まちづくりシンポジウム」の参加者から合わせて、947枚の付せんに生の声をいただきました。こうした参加者の声を大切にしながら、下図（図表2.1.1）のような手順で整理・分類・分析し、9つの未来像と未来像を実現するための取組みを描き出しており、次節から「みんなの計画」である「三茶のミライ」の特長について、検討の過程を説明します。

図表 2.1.1 「三茶のミライ」の描き方



2.2 「みんな」が考えるまちのテーマ

基本方針 3 つの方針やまちの特色を踏まえながら、さらに多様な人々が考えるまちの特色を知ることで、これから目指すべき「まちの未来像」へと繋がると考えています。三軒茶屋駅周辺のまちに関わる区民や事業者など老若男女が参加したまちづくり会議のワークショップや、まちづくりシンポジウムを通じて「まちの魅力」や「まちづくりに取り組むまでに感じる課題」について様々な意見を共有しました(図表 2.2.1 参照)。さらに、有識者や地域関係者などが出席したまちづくり検討委員会を通して、専門的な視点や意見も踏まえました。

図表 2.2.1 まちづくり会議とまちづくりシンポジウム概要

まちづくり 会議 (第1回)		テーマ：あなたが知っている三茶の魅力をみんなにシェアしよう ワーク①：「三茶のいいね」を共有しよう ワーク②：「三茶の魅力再発見マップ」をつくろう
まちづくり 会議 (第2回)		テーマ：「イマ」を「ミライ」に近づけるアクションを考えよう！ ワーク①：三茶の「ミライ」を思い描こう ワーク②：「ミライ」へ向けたアクションを考えよう
まちづくり シンポジウム		基調講演：メディアの視点から見た“三茶”のまちの魅力と課題（株式会社マガジンハウス コロカル編集長 及川卓也氏） 三軒茶屋のまちづくり：世田谷区による取り組み報告 トークセッション：7名によるパネルディスカッション

※まちづくり会議及びまちづくりシンポジウムの詳細については添付資料参照

これらの意見を、基本方針で挙げられていた 3 つの方針に整理するとともに、まちの特色として、キーワードを抽出し「商業」、「文化」、「働き方」、「拠点性」、「地域参加」、「暮らし」、「くつろぎ」、「交通利便性」、「防災」の 9 つのテーマに分類しました。(図表 2.2.2 参照)

図表 2.2.2 まちの特色や意見を細分化した分類



2.3 「みんな」で思い描く未来像

多様な主体が共有できる未来像を設定するために、2.2 節で分類したテーマに沿って、まちづくり会議などで得られた意見から 9 つの未来像を導き出しました。(図表 2.3.1 参照)

図表 2.3.1 未来像

分類したテーマ	未来像
商業	1. 個性豊かな店が通りを彩るまち
文化	2. 歴史を継承しアートを生み出すまち
働き方	3. 暮らしの近くに「働く」があるまち
拠点性	4. 拠点性を生かして人々の活動を支えるまち
地域参加	5. 誰もがまちづくりに関われるまち
暮らし	6. 暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち
くつろぎ	7. くつろぎの空間が育まれるまち
交通利便性	8. 誰でも気軽に出かけられるまち
防災	9. 災害に強く、安全・安心のあるまち

2.4 基本方針の方針・方策と9つの未来像の繋がり

基本方針で示された方針・方策と9つの未来像の関係は、各々が役割を持ちつつも、交わるように関係しているため、主に繋がりが強いものを可視化しました。(図表 2.4.1 参照)

図表 2.4.1 方策と未来像の主な繋がり

基本方針		(仮称) 三茶のミライ (基本計画)								
方針	方策	未来像								
		1 個性豊かな店が通りを彩るまち	2 歴史を継承しアートを生み出すまち	3 暮らしの近くに「働く」があるまち	4 拠点性を活かして人々の活動を支えるまち	5 誰もがまちづくりに関われるまち	6 暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち	7 くつろぎの空間が育まれるまち	8 誰でも気軽に出かけられるまち	9 災害に強く、安全・安心のまち
1 つたえる	1-① 共存・MIXを維持する	○					○			
	1-② 界わい文化を継承する	○	○							
	1-③ コミュニティを維持し強化する					○	○			○
2 つなげる	2-① シームレスな交通結節点を形成する								○	
	2-② 出会いと交流の空間を創出する				○			○	○	
	2-③ 災害に備え安全・安心と支え合いを育む									○
3 はぐくむ	3-① 「暮らす」と「働く」を両立する			○		○				
	3-② 人を呼び込む魅力をつくる		○		○					
	3-③ まちの機能をバランスよく高める			○				○		

また、基本方針で示したまちのビジョン、方針・方策、2.2 節で分類したテーマ、みんなで思い描く未来像、取組みの繋がりを体系的に整理しました。(図表 2.4.2 参照)

図表 2.4.2 「三茶のミライ」の未来像と取組み



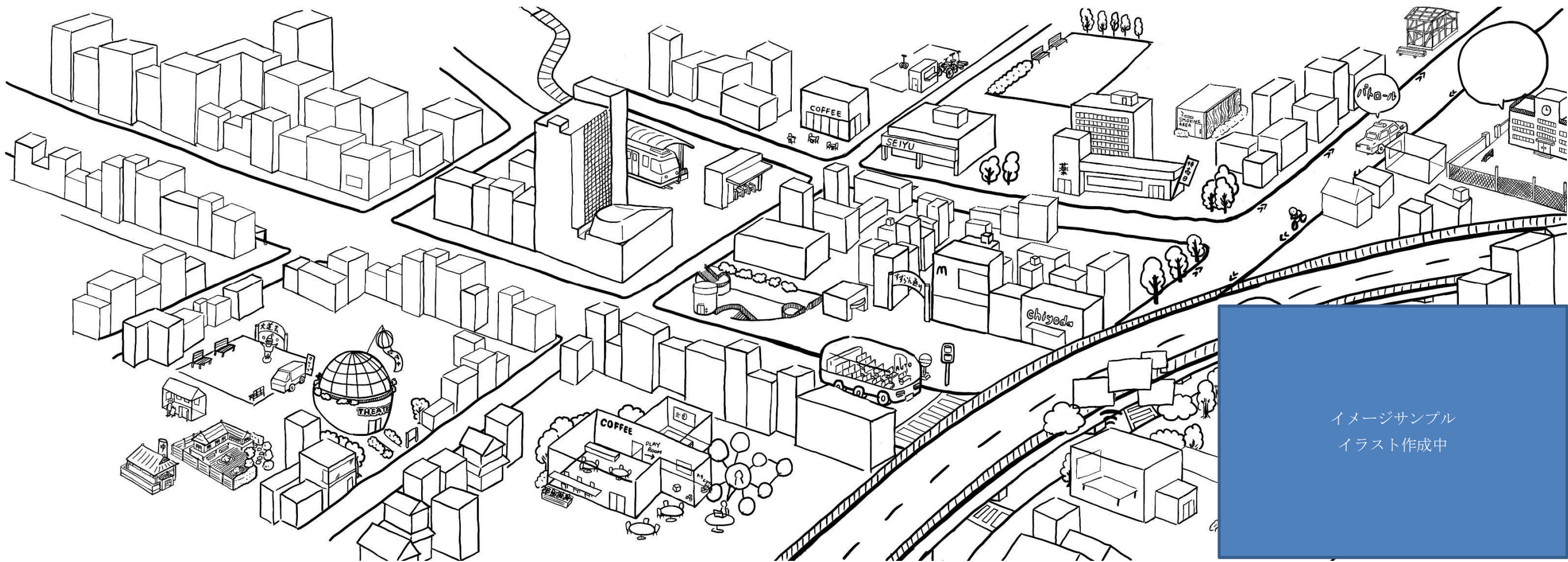
第3章.「三茶のミライ」～みんなでつくる三茶のミライ～

3.1 未来像の概要

「みんな」で導き出した9つの未来像について、未来像がしたまちのイメージを1枚のイラストにしました。
このわくわくドキドキする未来像のイラストを通じて、より多くの人が軒茶屋駅周辺まちづくりに興味を持ち、次の行動を起こすきっかけを作っていきます。

※下図は、9つの未来像の全体と、各未来像のイメージ図をそれぞれ掲載します。ページのレイアウト構成（A4 縦 or A3 横など）はデザイン検討と合わせて詰めていきます

9つの未来像が実現したときのまちのイメージ
これは、9つの未来像が実現したまちのイメージです。それぞれの未来像がイメージするまちの営みを見ていきましょう。



※このイラストはイメージであり、現況や将来計画の全てを反映したものではありません。

1. 個性豊かな店が通りを彩るまち

未来像のイメージイラスト

個性豊かな店舗が通りを彩り、界わい性を育んでいる。様々な事業者や商店等が連携することによって新たな魅力を生み、まちの活気が継続している。

2. 歴史を継承しアートを生み出すまち

未来像のイメージイラスト

次世代に誇れるまちの歴史や文化が継承され、その魅力が世界中に発信している。文化施設を社会基盤として支えていくことで、作り手が集う場所が用意され、新たなアートや文化が育まれている。

3. 暮らしの近くに「働く」があるまち

未来像のイメージイラスト

暮らしの近くで様々な働き方ができる環境があり、そうした場所に人が集まり、活気づいている。起業・創業への後押しが、人々を呼び込み、新たなビジネスチャンスが生まれている。

4. 拠点性を活かして人々の活動を支えるまち

未来像のイメージイラスト

古くからの街道の分岐点であることや公共交通が充実している利便性を活かし、公共サービスを始めとした拠点ならではの機能が集約され、様々な人々の活動を支えている。

5. 誰もがまちづくりに関われるまち

未来像のイメージイラスト

まちにいる人々が主体的にまちづくりに参加し、まちを育てていける仕組みがあり、始める、支える、賛同する等、様々な形でまちづくりに関われる機会が提供されている。

6. 暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち

未来像のイメージイラスト

多様な暮らしが重なり合う中で、助け・支え合い、相互理解を深めながら、お互いを尊重し合う関係性が生まれている。こうした包容力が地域内外でのさらなる交流を生み出している。

7. くつろぎの空間が育まれるまち

未来像のイメージイラスト

まちなかに広がる公共的空間が居心地の良い場所を生み、まちを繋いでいる。
駅周辺は清潔感にあふれ、まち並みとみどりが調和し、人々の愛着心を育んでいる。

8. 誰でも気軽に出かけられるまち

未来像のイメージイラスト

地上や地下に広がる複層的なまちなかを行き来できる等、誰もが行きたいところに安心して、移動ができています。公共交通や自転車、新たなモビリティ等の様々な移動サービスが連携し、利用や乗り換えが快適になっている。

9. 災害に強く、安全・安心のまち

未来像のイメージイラスト

まちに関わる多様な人々が連携できる共助による防災や防犯に対する体制が整っている。建物の不燃化、耐震化、防災空間の充実等により、防災性が向上している。

3.2 未来像実現のための取組み

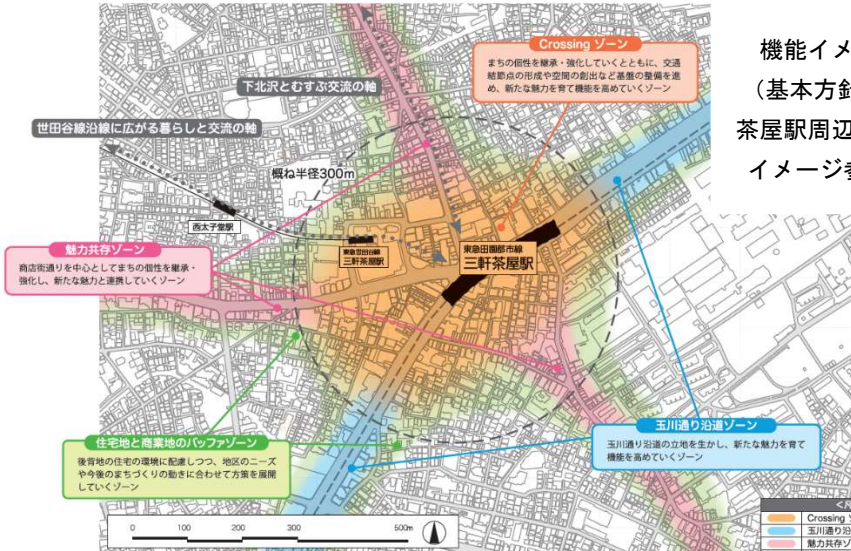
3.2.1 取組みの考え方

未来像の実現に向けては、まちづくりの担い手である「みんな」ができることから行動し、継続することによって経験を積み重ねていくことが重要です。この未来像までの一連の過程が取組みであり、取組む主体によって様々なものが考えられます。ここでは、まちづくり会議やシンポジウムにおいて出てきたアイデアを基に、基本方針検討において示された取組み例や区の施策を踏まえ、基礎となる未来像を実現するための取組みを設定しました。（図表 2.1.1 参照）また、その取組みごとに、具体的な実施状況、取組む主体（期待できる主体や既に実施している主体）、実施を期待する時期や場所等について、図表 3.2.3 に示す考え方で設定しました。また、それぞれの取組みの性質に応じて活用可能な支援施策メニューや相談先（区の関係所管）についても参考情報として整理しました。

この取組みについては、「三茶のミライ」の策定にあたり、2019 年度から 2020 年度にまちづくり会議などの声や区の施策なども踏まえながら検討・整理した内容です。みんなが積極的に取組むための行動のきっかけとなるよう、可能な範囲で具体的に記載していますが、制限を設けるものではありません。未来像の実現に向けて、記載と異なる取組みの実施、既存の取組みの拡張、新たな主体の参画などが生まれてくることも期待しています。

図表 3.2.1 取組みの検討項目と考え方

検討項目	考え方
未来像を実現するための取組み	「三茶のミライ」がまちづくり活動を行う「みんなの計画」であるという基本理念に基づき、三軒茶屋駅周辺まちづくりに関わる人が幅広い視点からやりたいこと・やってほしいこと、専門家の視点からやるべきと考えること、行政の視点からやるべきと考えていることを取りまとめたものです。
取組む主体（期待できる主体、既に実施している主体）	取組みの実施状況によって、「期待できる主体」と「既に実施している主体」という 2 つの捉え方をしています。 ・ 期待できる主体：新規取組みの実施主体（事業形態などからノウハウや活用できそうな素地がありそうな団体であれば、取り組む障壁が低いと考えたため） ・ 既に実施している主体：既存取組みの実施主体 これら取組む主体は、主に「住む人」、「学ぶ人」、「資産を持つ人」、「働く人」、「支援する組織」、「行政」に大別して整理しました。 ・ 住む人：主に対象区域に住む区民や町会などの区民組織

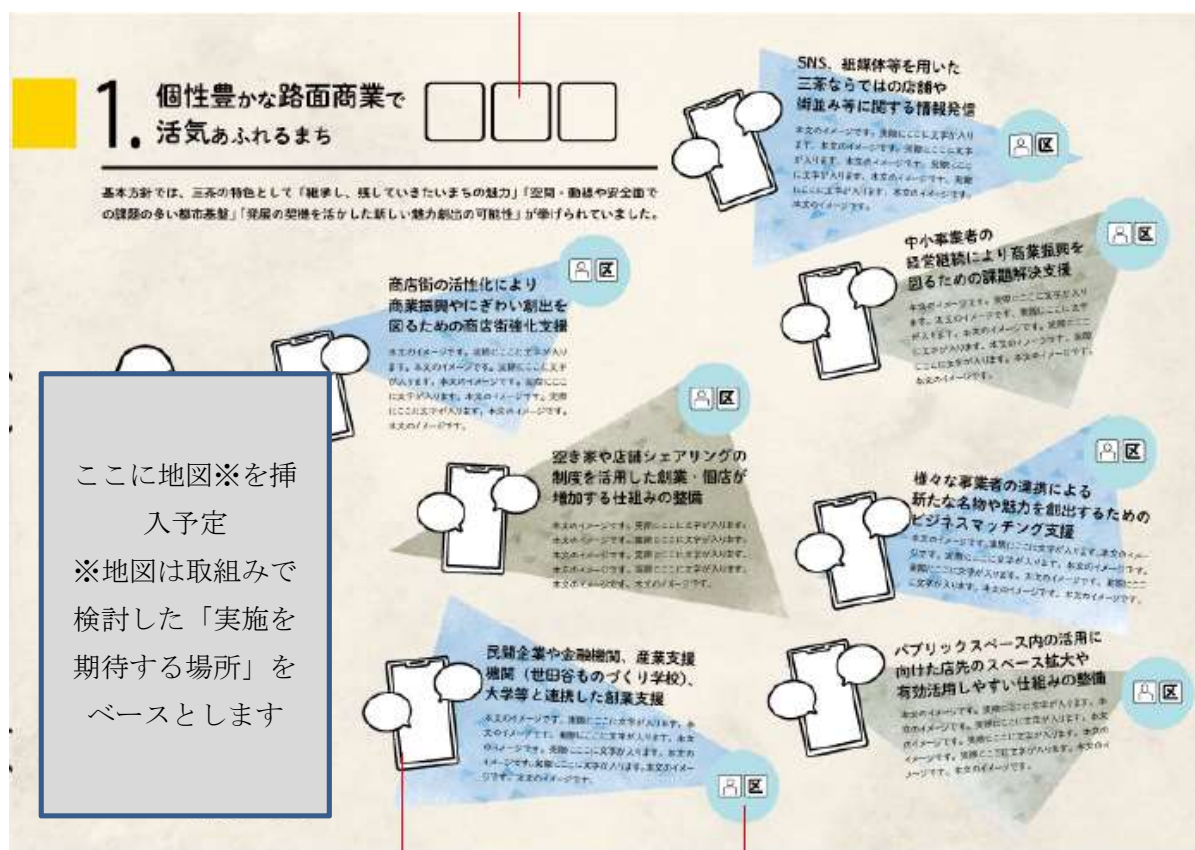
	・ 学ぶ人：主に勉学のために対象区域を訪れる人 ・ 資産を持つ人：居住地を問わず、主に対象区域内で土地と建物、またはそのどちらかを所有する個人や組織 ・ 働く人：対象区域内で働く個人事業主、法人など ・ 支援する組織：対象区域内で住む人、学ぶ人、資産を持つ人、働く人の活動を支える団体 ・ 行政：世田谷区、東京都、国土交通省など
取組みの実施を期待する時期	「三軒茶屋のミライ」策定後、取組む主体が概ね5年以内で取組める可能性があるものは短期、6年以上必要な可能性があるものは長期として考えました。 時期はあくまで目安であり、取り組む主体によって実際の期間は変動するものと考えています。
取組みの実施を期待する場所(対象場所)	対象区域において、基本方針では、三軒茶屋駅周辺のまちの個性やポテンシャルを活かした機能イメージが示されています。このイメージを基に、取組み内容を照らし合わせて検討しました。  機能イメージ (基本方針_三軒茶屋駅周辺の機能イメージ参照)

3.2.2 9つの未来像を実現するための取組み

ここでは、未来像を実現するための取組み、取組みの実施状況、取り組む主体、取組みの実施を期待する時期、取組みの実施を期待する場所について、未来像ごとに整理しました。

なお、活用可能な支援施策メニューと区の関係所管については、更新や改変などがなされることから、添付資料として、区のホームページに情報を掲載しています。また、取組みの基となるまちづくり会議やシンポジウムから出た意見やアイデアについても、添付資料として、区のホームページに情報を掲載しています。

※下図は、取組み一覧を基にデザインを施した図を、未来像ごとに掲載します。ページのレイアウト構成（A4 縦 or A3 横など）はデザイン検討と合わせて詰めていきます



「2 歴史を継承しアートを生み出すまち」

「3 暮らしの近くに「多様な働き方」があるまち」

「4 拠点性を生かしたまち」

「5 誰もがまちづくりの参加者になれるまち」

「6 暮らしを通して多様な関係を育めるまち」

「7 くつろぎの空間があるまち」

「8 出かけたくなるまち」

「9 災害に強く、安全・安心のあるまち」

コラム

※コロナにより起きているまちづくりの方向性への変化や、文化に対して起きていることを掲載することを記載予定

※挿入位置は、3章の終わりと4章の始まりの間で1ページを想定

記載するタイトル・作成者案（全てを記載するということではありません）

- ① アートとコロナ：曾田委員
- ② これからの働き方とコロナ：中島委員
- ③ ウォーカブルな都市とコロナ：坂井委員長
- ④ 三茶の町の変化と取組み：飯島委員（商店街支援、地域内経済の活性化）、吉田委員（コワーキングスペース、クラウドファンディングの支援）

第4章. 今後の展望～「みんな」の思いをまちづくりに～

4.1 三茶のミライに向けたまちづくり

4.1.1 協働による持続可能なまちづくり

第3章で示した未来像を実現するためには、これまでの取組みに加え、先進的な取り組みや未だ見ぬ新たな試みに、多様な主体が互いにかかわりあって挑戦していく必要があります。

このようなたゆまぬ取り組みや新たな試みは、まちの魅力を生み出し、地域価値を向上させ、人の輪をさらに広げ、持続可能な都市経営の原動力となります。

また、今般のコロナ危機を乗り越えていくサステナブル・リカバリーの考えが重要であり、コロナ危機を経験した人々の意識や行動の変化に対応したまちづくりが求められます。

こうした変化に対応したまちづくりは、テレワークやソーシャルディスタンスの確保など様々な行動様式やリカバリーに向けた施策展開の中に現れています。このようなまちづくりを進めるにあたっては、利害や立場の異なる多様な主体間の協力・調整がますます重要となっています。

区民、事業者、区など多様な主体が互いにかかわりあって取り組んでいく協働のまちづくりでは、それぞれが様々な立場で役割を担っていくことが重要になります。そのためには、まちづくりの計画づくりや取組みに自らの意見を反映させ、主体的に取り組んでいける参加の場を増やしていく必要があります。また、まちづくりに多くの人が触れ、スキルアップしていける機会も重要です。さらに、様々な主体が、これまでに無かった価値を生み出していけるような、新たな関係性を構築していくことが欠かせません。

こうした場や機会の提供、そして新たな関係性の構築にあたっては、地区単位での取り組みをマネジメントする仕組みづくりの必要性が認識されており、本区の二子玉川駅周辺地区を対象とした「二子玉川エリアマネジメント」や北沢地域の小田急線上部周辺を対象とした「北沢PR戦略会議」などが既に活動を始めています。三軒茶屋駅周辺においても、まちをマネジメントする仕組みを構築し、協働のまちづくりによって、まちの魅力のさらなる向上に取り組んでいかなければなりません。

4.1.2 まちをマネジメントする仕組みづくり

まちをマネジメントする仕組みづくりにあたっては、まちづくりにかかわる様々な主体の考え方、これまでの取組み、主体相互の関係性などを整理し、三軒茶屋駅周辺で活動する様々な主体にとって、機能的でオープンな体制構築を目指していかねばなりません。そして、町会、商店街やNPOなど多様な主体が複数存在し、商業地から住宅地まで幅広い土地利用がされている三軒茶屋駅周辺においては、まちづくりの体制を維持、発展させていくために、まちづくりにかかわる様々な人や組織、団体との多様な関係性のもとで、中立的な立場で関係者間の連携・調整を行い、活動を支援していく「まちづくり支援組織」が必要であると考えます。

三軒茶屋駅周辺のまちづくりにおいて、まちづくり支援組織が担うべき活動は、図表 4.1.1 に示す4つがあります。



1 つ目に、未来像実現のための取組みを行うには、「個人」、「団体」が各種取組みを円滑に実行できる環境の整備が重要であることから、これらの場や機会の創出をします。

2 つ目に、様々な主体が連携しながら三軒茶屋駅周辺まちづくりを進めていくために、各々の取組みに対して、内容の助言・調整を行います。

3 つ目に、三軒茶屋駅周辺の場を活用して取組みを行うにあたっては、関係者となる近隣の商店街や地域住民、地域の企業からの理解を得ると共に調整・連携を行うことが重要となり、これらの活動に注力します。

4つ目に、まちづくりの担い手の一員として、未来像を実現するための取組みを実施します。

これらの活動を進めることにより、未来像に向けた取組みの実施者と共に三軒茶屋駅周辺のまちづくりに貢献します。

今後、三軒茶屋駅周辺のまちづくりの推進に向けて、未来像実現のための取組みを行うためには、三軒茶屋駅周辺に根付いた既に事業を展開している商店街関係者、起業家などの人々、まちを支えるNPO法人、一般社団法人などの協力が不可欠です。そのため、取組みの実施主体となるまちづくりの担い手と本区による関わりだけでなく、地域の人々や団体も含めたそれぞれの関係性を明確にし、まちづくりを推進する体制を検討する必要があります。

4.2 三茶のミライ実現のためのまちづくりの推進体制

4.2.1 まちづくりの実施主体について

ここでは、まちづくりの実施主体となる「まちづくりの担い手」、「まちづくり支援組織」、「世田谷区」の期待役割や行動を示します。(図表 4.2.1参照)

図表 4.2.1 まちづくり実施主体ごとの位置づけ

まちづくり 実施主体	位置づけ
まちづくり の担い手	まちづくりの担い手は、三茶のミライの実現に向けた取組みの実施者です。具体的な属性は、区民や大学関係者、事業者等の個人及び複数人で構成される団体が想定されます。 また、これからまちづくりに参加する可能性がある人々もまちづくりの担い手とします。
まちづくり 支援組織	まちづくり支援組織は、まちづくりの担い手の一員で、かつ、公共の精神（パブリックマインド）を持ちながら地域と活動を繋ぐ役割を担う組織です。
世田谷区	世田谷区も、まちづくりの担い手の一員で、かつ、公共空間という場の提供などにより様々な取組みが円滑に進むよう、地域を支える役割を担います。

4.2.2 まちづくりの担い手同士を繋げる機会（まちづくり会議）について

未来像実現に向けた取組みを円滑に進めるためには、4.2.1で位置付けたそれぞれのまちづくりの担い手同士が連携することが重要です。また、持続的なまちづくりを実現するためには、継続的な新規活動者の参画が必要です。まちづくりの担い手同士の連携と新規活動者の参画、これら2つの実現にあたり、まちづくり会議を発展させた「まちづくりの担い手同士を繋げる機会（まちづくり会議）」を形成し、運用していくことを目指します。

このまちづくりの担い手同士を繋げる機会（まちづくり会議）は、様々なまちづくりの担い手が参加し、取組みを加速させることを目的として設置するものです。また、参加者や目的を固定化せず、まちづくりの担い手同士の出会いや知見の共有、資金支援、人材育成、情報共有・発信といった効果が得られることを目指します。

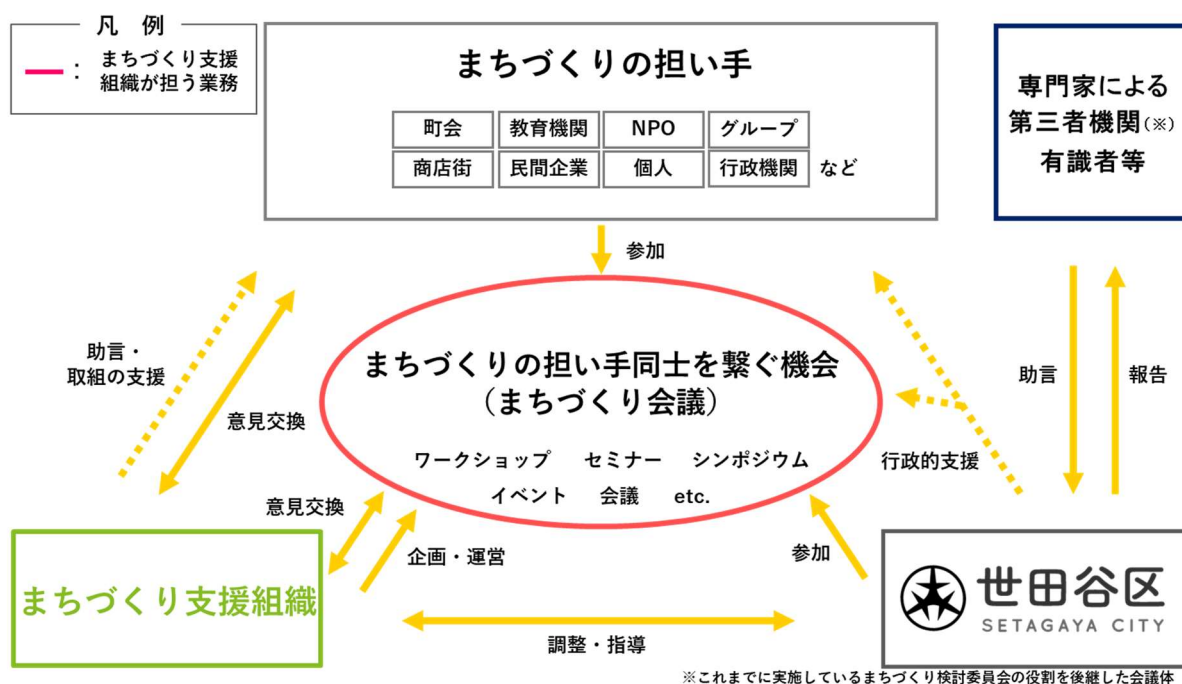
図表 4.2.2 まちづくりの担い手同士を繋ぐ機会の形成



4.2.3 組織の成熟に伴うまちづくり推進体制の進展について

持続可能な協働のまちづくりを推進するためにはまちづくりの実施主体とまちづくりの担い手を繋げる機会が良好な関係性を構築し、まちづくりの推進体制とすることが必要です。そのため、ここでは三軒茶屋駅周辺のまちづくりで構築を目指すまちづくり推進体制について説明します。この推進体制は、まちづくりの実施主体それぞれの立場や強みを活かしながらまちづくりに関与できる体制とするために、「まちづくりの担い手」、「まちづくり支援組織」、「世田谷区」がそれぞれ独立することなく、互いに関係性を持ちながらまちづくりを進めていくものです（図表 4.2.3 参照）。専門家による第三者機関は、「三茶のミライ」検討段階で実施しているまちづくり検討委員会の役割を後継した会議体とします。

図表 4.2.3 三軒茶屋駅周辺のまちづくりで構築を目指すまちづくり推進体制図



【まちづくりの担い手】

まちづくり支援組織からの助言や取組み推進の支援を受けたり、まちづくり会議を発展させた「まちづくりの担い手同士を繋ぐ機会」に参加し、担い手同士がお互いに支援しあいながら、三茶のミライの実現に向けた取組みを進めます。必要に応じて、公的な制度の活用に関する支援を受けることで、円滑に取組みを実施できる体制としています。

また、現時点ではまちづくり会議等の活動について認知していない人々も、今後三軒茶屋駅周辺で行われる取組みに参加・体験することでまちづくりに関心を持ち、まちづくりの担い手になる可能性を想定しています。

【まちづくり支援組織】

未来像実現に向けた取組みを行う場や機会を運営し、まちを舞台として使いこなすための制度設計・提案・活用等を駆使したプロデュースによって、まちづくりの担い手が円滑に取組みを行えるよう、助言や取組みの支援を行います。また、まちづくり支援組織自体もまちづくりの担い手の一員として、三茶のミライの実現に向けて取組みを行いつつ、他のまちづくりの担い手とが意見交換をすることで、まちづくりの担い手から見た三軒茶屋駅周辺のまちづくりに対する動向や需要をいち早く、まちづくり支援組織に伝えることが期待できます。

まちづくりの担い手への支援や意見交換から、まちづくり支援組織だけでは解決できない課題が発生した場合は、必要に応じて世田谷区との調整を行う体制としています。

【世田谷区】

まちづくりの担い手が円滑に取組みを行えるように、まちづくり支援組織とともに取組み内容の調整や助言などを行います。また、様々な主体に対して、三茶のミライへの理解を得るよう働きかけ、まちづくりの担い手として参加の機会を増やしつつ、区自体もまちづくりの担い手の一員として、三茶のミライの実現に向けて取組みを行います。

これら3つのまちづくりの実施主体はそれぞれの立場から取組みを進めると共に、必要に応じてまちづくりの担い手同士を繋ぐ機会（まちづくり会議）を通じて情報発信や知見の獲得、仲間集めをすることができる体制としています。

三軒茶屋駅周辺では、既に各分野において様々なまちづくり活動を行っている団体が多数あり、その団体のこれまでの活動があつてこそ、区内外に誇れる魅力が生まれています。三茶のミライの実現に向けては、これら既存団体と連携し、さらに効果的な環境整備に繋げていくことが必要だと考えます。そこで、既存団体の方々には、継続して三軒茶屋駅周辺のまちづくりに関与いただくと共に、まちづくりの担い手同士を繋ぐ機会（まちづくり会議）へ参加いただくことで、取組みの拡大や更なる推進を目指しています。

未来に向かってまちづくりを進めていく上で、これら3つのまちづくりの実施主体は、まちづくり活動を展開するための羅針盤として「三茶のミライ」を活用し、三軒茶屋駅周辺のまちの魅力向上に向けて取組みを実施していきます。その中で、実施内容や進め方が未来像を実現するものとなっているか確認することも重要なため、専門家による第三者機関を交え、適宜、「まちづくり支援組織」と「世田谷区」がまちづくりの方向性を確認することとします。なお、第三者機関は、まちづくりの方向性確認という観点だけでなく、まちづくりを継続的に推進させ、更なる魅力向上に繋げるという観点での助言も行うこととします。

4.2.4 まちづくり推進体制の進展状況による変化

図表 4.2.3で示したまちづくり推進体制の構築に向けては、様々な主体と信頼関係を築き、徐々に規模を拡大・強化しながら進める必要があります。そのため、まちづくり推進体制の検討を含む「三茶のミライ」検討段階から、取組みの実施段階まで、3つのまちづくり実施主体やまちづくりの担い手同士を繋げる機会、専門家による第三者機関が担うべき役割や関係性は変化していきます。

ここでは、図表 4.2.4に示す、三軒茶屋におけるまちづくりの推進体制の進展状況に合わせ、「準備期」、「創設期」、「成長期」に分け、それぞれのまちづくりに関わる人々や組織の位置づけを整理します。

図表 4.2.4 まちづくり推進体制の進展

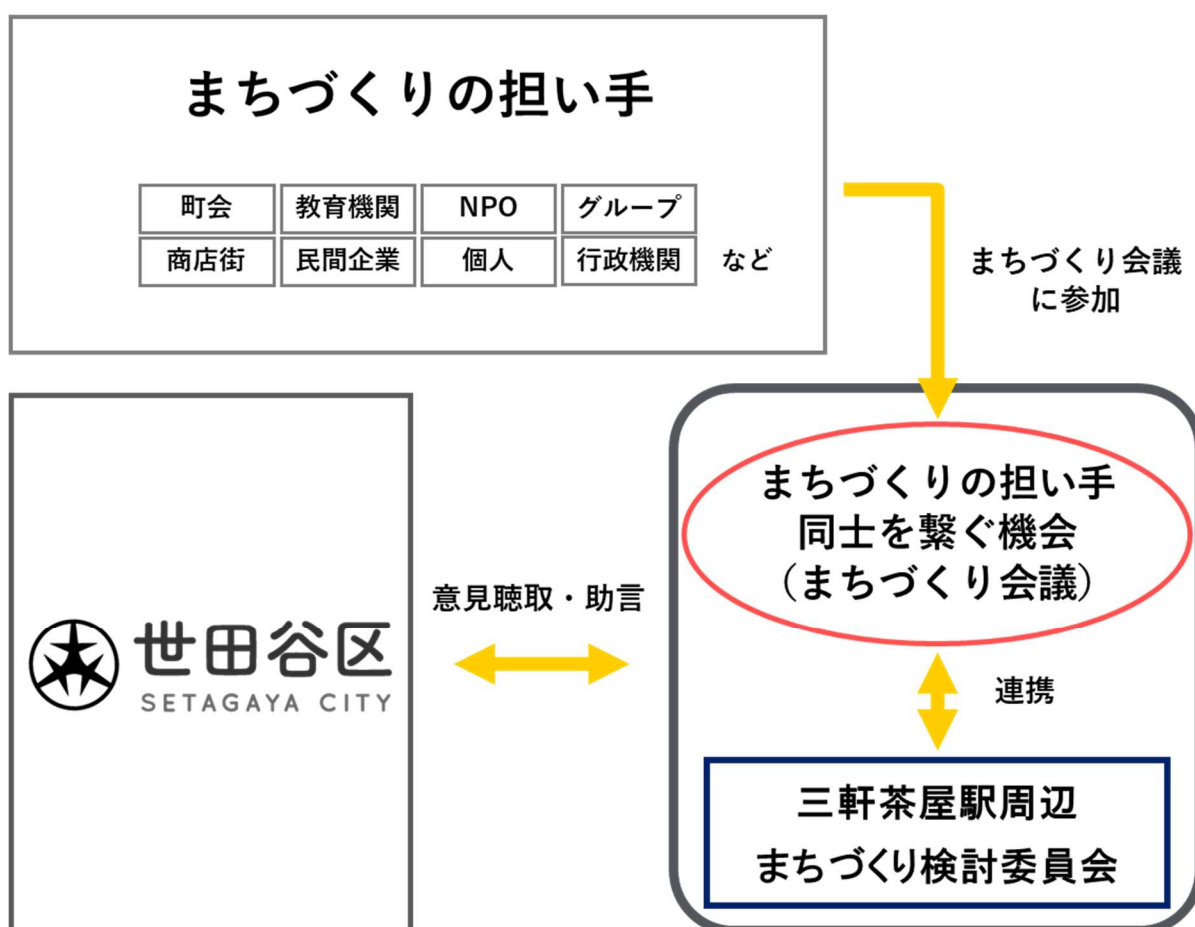


【準備期】

準備期は、「三茶のミライ」検討段階において区が開催した、まちづくり検討委員会やまちづくり会議での意見を踏まえ、まちづくりの推進体制検討を進めました（図表 4.2.5参照）。

まちづくりの担い手となりうる区民や大学関係者、事業者等の個人及び複数人で構成される団体がまちづくり会議に参加し、まちづくりの進め方や（仮称）三茶のミライ（基本計画）の検討に向けた様々な意見やまちづくりの取り組みを共有ことで、まちのことを自分事としてとらえ、今後の三軒茶屋駅周辺のまちづくりに向けた気運を醸成してきました。

図表 4.2.5 まちづくり推進体制図（準備期）

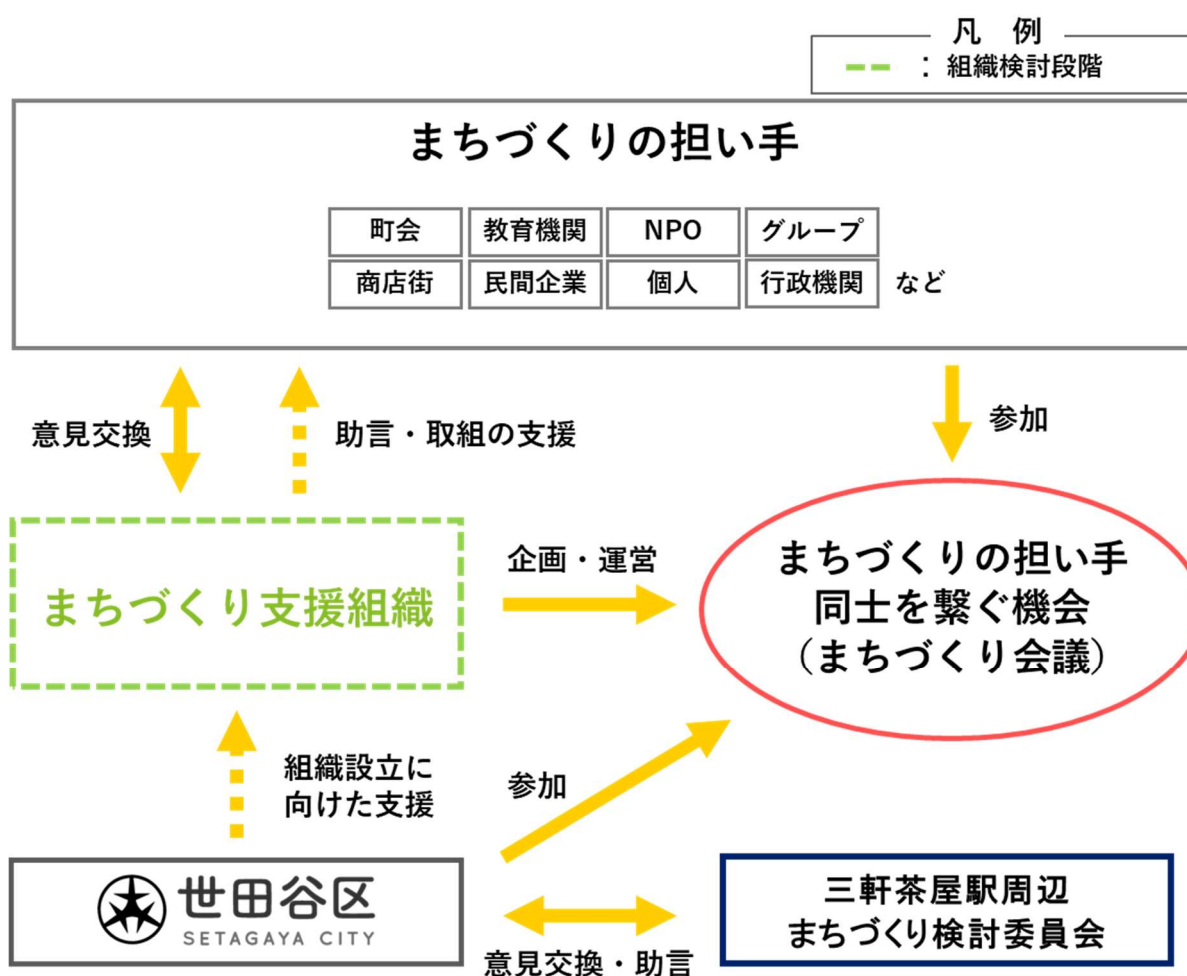


【創設期】

創設期は、世田谷区が「まちづくり支援組織」の体制構築に向けた支援を行いながら、実証実験として支援組織候補者によって、まちづくりの担い手同士を繋ぐ機会（まちづくり会議）が企画・運営されるようになります（図表 4.2.6参照）。世田谷区は、運営支援としてだけではなくまちづくりの担い手の一員として、まちづくり会議に参加します。

まちづくり支援組織の体制を構築することで、まちづくりの担い手は未来像の実現に向けた取組みを円滑に実施するための細やかな助言や支援を受けることができます。また、まちづくり支援組織がまちを舞台として使いこなすためのプロデュースを行うことで、既存団体は、まちづくりの担い手同士を繋ぐ機会に参加することで継続している取組みを加速させ、まちづくりに関する取組みを行っていない方々は、様々な形でまちづくりへ関与する一步を踏み出すことが期待できます。そのため、創設期では最終的に、まちづくり支援組織の体制を構築することを目指します。

図表 4.2.6 まちづくり推進体制図（創設期）



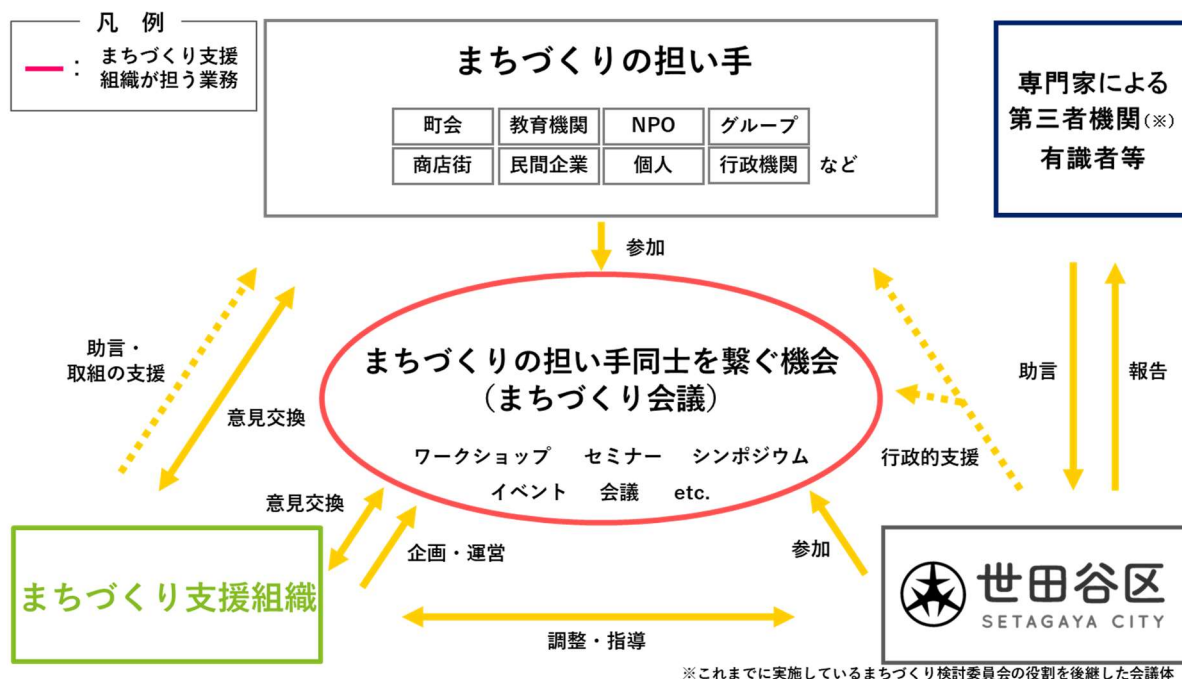
【成長期】

成長期は、まちづくりの担い手が創設期時点から更に増加し、多様な取組みが三軒茶屋駅周辺の様々な場所で行われている状況が想定されます（図表 4.2.7 参照）。そのような状況を受けて、まちづくりの担い手同士を繋ぐ機会（まちづくり会議）は、規模を拡大させ、プラットフォームとしての機能を有します。この中では、人材育成やマッチング等を目的としたセミナーやイベント、ワークショップの開催といった各種内容を実施する予定です。

まちづくり支援組織は、本格的にまちづくり会議の企画・運営を実施していきます。また、今後の進め方の1つの選択肢として、まちづくり支援組織が都市再生推進法人となり、三軒茶屋駅周辺のまちづくりを推進させることも考えられます。それは、まちづくり支援組織が世田谷区から都市再生推進法人の指定を受けることで、公的な位置付けの組織となるため、関係者調整の円滑化、都市再生整備計画の提案、特別措置法の活用を視野に入れたより自立的なまちづくりが行える可能性があるからです。

「世田谷区」は、まちづくり支援組織の活動の本格化や、まちづくりの担い手の取組みの拡大に応じて、まちづくりの担い手に対して三茶のミライへの理解を得るよう働きかけ、取組み参加への機会を増やすよう支援を行います。

図表 4.2.7 まちづくり推進体制図（成長期）



4.3 「三茶のミライ」実現に向けたロードマップ

ここでは、未来像の実現に向けて、「準備期」「創設期」「成長期」の進展状況での取組みをロードマップとして整理しました。（図表 4.3.1 参照）

準備期には、これまでに「三茶のミライ」策定と、まちづくり推進体制の検討を行いました。体制検討は、まちづくり検討委員会やまちづくり会議などから聴取した意見を踏まえて内容の具体化を行いました。「三茶のミライ」策定とまちづくり推進体制の検討は、密接に関係していることから、相互に連携し進めていく必要があります。2021 年度に進めている体制検討では、「三茶のミライ」の未来像に向けた取組みに基づいて、支援組織の構築を推進する候補者を、区が中心となって発掘します。また、これらの行動を通じて、未来像実現に向けた取組みの精査を行います。

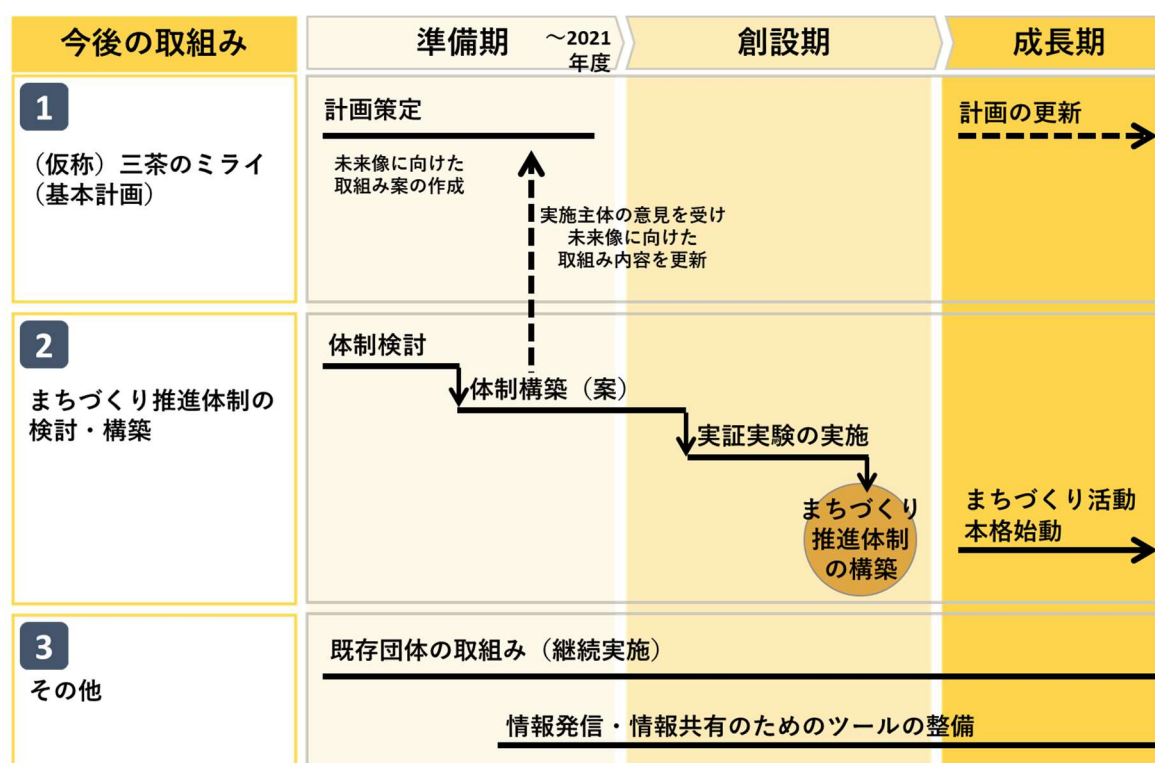
創設期には、実証実験などを行い、まちづくり支援組織の体制構築を目指します。

成長期には、まちづくり支援組織の活動が本格始動する予定です。

なお、「三茶のミライ」は計画策定後もまちづくり支援組織の活動内容や三軒茶屋駅周辺のまちの状況に応じて内容の更新を行い、継続的に活用することを想定しています。

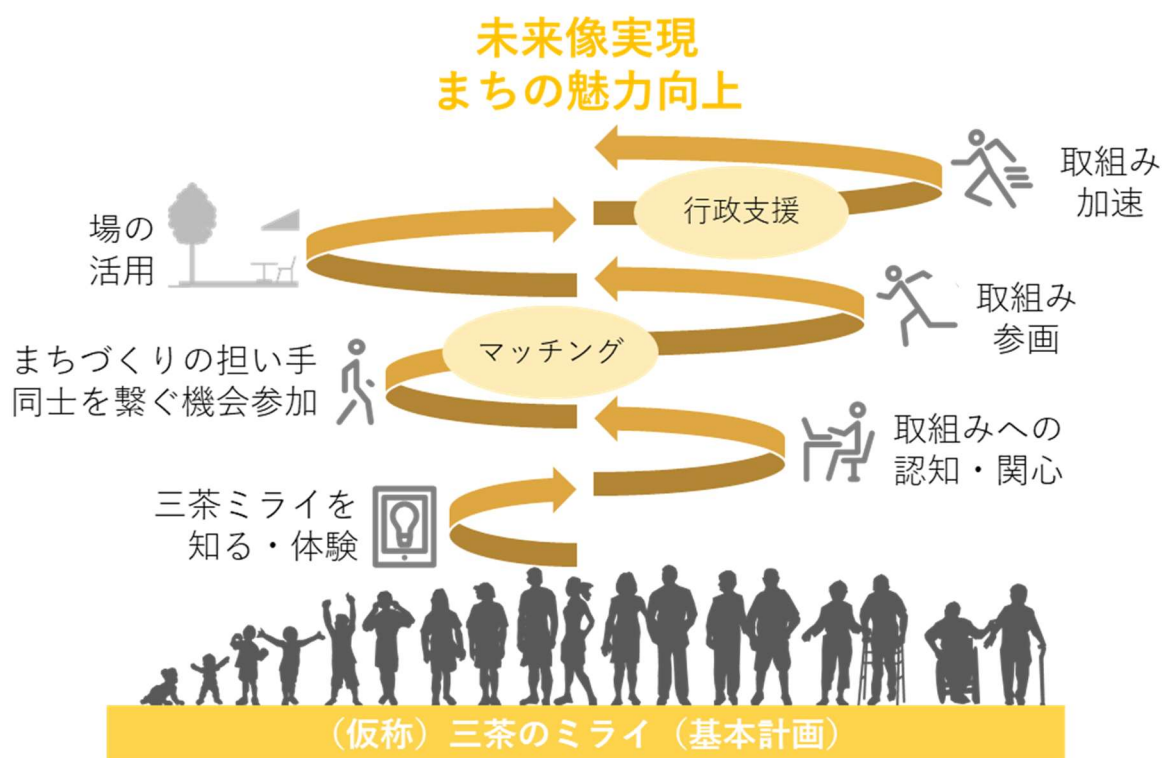
また、その他の取組みとして、準備期から継続してまちづくりの情報発信や情報共有のためのツールの整備も検討していきます。

図表 4.3.1 ロードマップ



まちづくりの担い手については、既にまちづくり活動を行っている人、取組みに参画したい人、まだ何も認知していない人など、状況に応じて様々ですが、（仮称）三茶のミライ（基本計画）が策定された後、図表 4.3.2 に示す今後の行動のように、みんなが取組みに参画していくことを期待します。

図表 4.3.2 まちづくりの担い手の今後の行動



発行月：2021 年 X 月 XX 日
発行者：世田谷区
住 所：東京都世田谷区 4-21-27
電 話：03-5432-XXXX
